



木刈中タイムズ

No. 20

心身ともにたくましく 自ら学び 共に生きる生徒
—笑顔・感動, はつらつ木刈—



令和7年度 木刈中学校 卒業式



第42回印西市立木刈中学校の卒業式を、3月10日（火）に実施いたしました。

本来なら、1・2年生も参列し、一緒に3年生の卒業をお祝いしたいところですが、式場の関係で、参列は在校生の代表生徒のみといたしました。式に参列した在校生代表生徒の送辞では、卒業生へこれまでの感謝の気持ちと、先輩達の思いを引き継いでいくという決意が語られました。卒業生の答辞は、これまでのたくさんの思い出、そして自分達を支えてくれた方々への感謝の気持ちが込められ、聞いている者の涙を誘いました。そして最後の合唱「群青」は、心に響く素晴らしいものでした。保護者の皆さまの温かなまなざしに見守られ、素晴らしい式を挙行することができました。ありがとうございました。

ここに、在校生による送辞、卒業生の答辞、校長の式辞を掲載いたします。少しでも式の様子を感じ取っていただければ幸いです。

○送 辞



温かい春の香りを感じられる3月、先輩方は新たな思いで今日の日を迎えていることと思います。この度は、ご卒業おめでとうございます。

先輩方の姿を前にすると、数々の思い出が浮かんできます。

クラスで心をつ一つにして美しい音色を響かせた、秋陽祭。私が一年生だった頃、先輩方のどこまでも響くようなきれいな歌声を聞いて、深く感動したことを思い出します。高い歌の技術はもちろんのこと、その曲にこめた強い思いが伝わるものでした。心をこめて歌うことは、聞いている人を感動させられる合唱にもつながるということを教えていただきました。先輩方の歌声を耳にするたびに、そのハーモニーの裏側にはどれほどの努力が結晶として刻まれているのだろうと、胸が熱くなります。先輩方の響き渡る歌声を聞いて感動したように、私たちも、聞いている人々の心に残るような合唱を創りあげていきたいです。

三色に分かれ、正々堂々と本気で勝負した体育祭。燦々と降り注ぐ陽光に照らされ、一番輝いていたのは、やはり先輩方でした。人一倍声を出して仲間の士気を高め、リーダーシップを取り、全校をまとめた姿に心を打たれました。そして、声を合わせる喜び、応援が持つ本来の楽しさを教えてくださった先輩方の、魂を揺さぶるかのような力強い声援は、私たちにとって追い風となり、競技に臨む背中を力強く押し、大きな勇気を与えてくださいました。私たちが勝利をかけて全力で戦えたのは、先輩方がつくってくださった最高の舞台があってこそのものでした。

また日常生活では、委員会活動や部活動において、不慣れなことに戸惑う私たちに対し、先輩方はいつもあたたかな手を差し伸べてくださいました。いつも私たちを支えてくださった先輩方には、どれほど感謝の言葉を尽くしても足りません。

先輩方と過ごした日々を思い返すほど、今日、この場をもって卒業されてしまうことに名残惜しさを感じ

じます。私たち後輩が大きく成長することができたのは、いつも引っ張ってくださった先輩方の存在があったからです。これからは私たちが、先輩方から受け継いだ伝統や思いを胸に、木刈中学校をより進化させていきます。

いよいよ、お別れのときです。ご卒業される先輩方の将来が、希望に満ち溢れたものであることを心よりお祈り申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

○答 辞

温かな春の日差しとともに、桜の蕾も膨らみ始める季節となりました。共に過ごしてきた私達278名は、今日、三年間通ってきたこの学び舎を卒業します。本日ご臨席賜りました来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、そして在校生の皆さんに、卒業生一同心より感謝いたします。



2023年4月8日に行われた入学式。慣れない制服に身を包みながら、校舎に足を踏み入れたあの日を思い出します。緊張しながら、初めて出会う先生や仲間と顔を合わせ、わくわくするような、それでいて少し緊張するような面持ちでした。そんなあの頃の私達は、季節の巡りとともに仲を深め合い、日常生活や学校行事に臨み、最高の絆を築き上げました。

学校行事では、全力で楽しむときは楽しみ、真剣に取り組むときは真剣に、メリハリを付けながら取り組みました。修学旅行では恵まれたことに、日本国際博覧会に行くことができました。知らない国のことを学んだり、海外の方と話したりした経験は、かけがえのないものでした。京都観光では、美味しい物を食べたり、歴史を感じる風景を見たりしながら仲間と笑い合い、たくさんの思い出を作りました。クラス皆の心が一つになった秋陽祭、合唱コンクール。曲選びの段階で、どのクラスも熱中していました。コンクール当日、ホールいっぱいに響かせた、各クラスの思いが詰まったあの合唱は、今でも胸に響き続けています。心も体も熱く燃え上がった体育祭。初めは声を出す人が少なかった応援も、応援リーダーの努力の甲斐あって、当日には空をも突き抜けるような力強い声を轟かせました。色の隔たりなく全校生徒で踊ったソーラン節では、楽しみながら、全力で踊り切ることができたと思います。体育祭を通して得た団結力は、固く結ばれていることでしょう。

部活動では、平日も、休日も、長期休みにもたくさんの練習を重ねました。辛く、苦しいこともありましたが、しかし、それに負けないくらい多くの、仲間たちとの幸せな思い出を作ることができたと思います。

学校行事も、部活動も、沢山の人の支えがあったからこそ、成し遂げることができました。特に先生方。ときに優しく、ときに厳しく、私達に寄り添ってくださいました。学ぶことや、挑戦することの楽しさを教えてくださり、そして私たちの背中をそっと押してくださいました。辛いときも、楽しいときも、どんな場面でも一緒に過ごした先生方との時間は、忘れられない、大切な宝物です。三年間、本当にありがとうございました。

在校生の皆さん。今まで様々な行事で笑い合い、支えてくれて、ありがとうございました。学校での生活は、本当にあっという間です。何気ない一日一日を大切に、楽しんで生活してください。辛いことがあっても仲間とならきっと乗り越えられます。困難を乗り越えたその先に、更にレベルアップした木刈中学校の姿があるはずですよ。私たちは卒業してしましますが、これからもずっと応援しています。

そして、いつも、どんなときでもそばで見守り、支えてくださったお父さん、お母さん。素直になれず、反抗してしまい、たくさんの迷惑をかけました。それでも、どんなときでも自分のことのように私達のことを考え、一緒に悩んでくれました。愛情を持って叱ってくれました。どんな結果だろうとたくさん

褒めてくれました。本当に、この15年間ありがとうございました。これから、私達はそれぞれが選んだ新しい道を、歩いていきます。思うようにいかず、くじけてしまうこともあるかもしれませんが、それでも、自分の目標へ一生懸命に、最後まで諦めずに向かっていきます。そんな私達を、優しく見守っていてください。そして私達が大人になった時に、たくさんの親孝行をさせてください。

最後に、3年生の皆。今日は、楽しいときも、苦しいときも傍で支えてくれた仲間や先生方、保護者の方々に、たくさんの感謝を伝えてください。ここまで頑張ってきたのは多くの人の支えがあったからです。心ゆくまでたくさんの感謝を伝えてください。そして、この三年間、お疲れ様でした。「当たり前を当たり前」を大切に、日々生活してきました。勉強も、部活も辛いときがあったよね。それでも必死に食らいつく皆の姿は、とても輝いていてかっこよかったです。春から始まる新しい生活に不安を抱えている人も多いかもしれませんが、でも、どんなことにも全力で取り組み、最高の仲間を得た皆なら、どんな壁でも乗り越えていけるはずですよ。これからも続く長い長い道のりを、自分と仲間を信じて、突き進んでいってください。この道の先に明るい未来があることを、心から願っています。

最後になりますが、この三年間、私達を支え、暖かく見守ってきてくださったすべての方々への感謝を込め、答辞とさせていただきます。

○校長式辞



冬の寒さも和らぎ、春の息吹が満ち始め、躍動の気配を漂わせる今日の佳き日。ご来賓の皆様ご臨席のもと、ここに印西市立木刈中学校第42回卒業式を挙げていきますことに、壇上からではありますが篤く感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を手にした278名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、本日、中学校三年間の教育課程を修了し、同時に九年間の義務教育を終えます。今日の皆さんの姿からは、様々なことを乗り越え、やり遂げてきた自信のほどが伝わってまいりました。

振り返れば三年前、少し大きめの制服に身を包み、期待と不安を抱えて迎えた入学式。入学当初は新たな学校生活に緊張し、戸惑いを感じたことがあったと思います。しかし、学校生活に慣れ、新しい仲間が増えていくにしたがい、様々なことに興味を持ち、一つひとつのことに根気よく取り組み、たくさんの経験を積み、思い出を作ってきました。

各学年で実施した旅行的行事は、学校を離れ、その場所だからこその学びがあり、仲間との絆を深めあう機会でもありました。また、学年が上がるごとに、校内で担う役割が大きくなりましたが、自らの役割に真摯に向き合い、三年生では最上級生として、すべての面において、学校の中心となり、全校を引っ張り、盛り上げてくれました。

全校で取り組んだ体育祭と合唱コンクール。ここ数年の猛暑のため、時期を入れ替えて実施しました。そのため、夏休み前から合唱曲を決めての音取り。夏休みが明けて、限られた時間での歌声創りは大変だったと思います。そのような中、自分達の歌をよりよいものにし、完成させようと取り組む姿は、1・2年生のよいお手本となりました。そして合唱コンクール当日の歌声は、どの学級も素晴らしく、聴く者の心を揺さぶり、感動を与えてくれました。体育祭では、どの競技にも真剣に取り組む、熱

い戦いの中心となっていました。夏休み中から準備を進めた応援は、全校のリーダーとしての力を発揮し、学年を超えて一つとなったエネルギー溢れるものでした。

その力は、行事ばかりでなく学習や生徒会活動においても発揮されました。木刈中学生徒の四大目標

『笑顔で挨拶 ひびけ歌声 活かそう時間 心で清掃』

を念頭に置いた取り組みは、これまでの活動を踏襲するのではなく、課題を見つけ改善していこうとするものでした。現状を考え、一つひとつの事柄に丁寧に取り組む、皆さんの姿勢を、1・2年生が目標とし、木刈中学校のよい伝統を引き継いでくれることと思います。

そのような皆さんも、進路決定の時期には、思い悩みつらい日々があったと思います。しかし、それ乗り越え、今この木刈中学校を巣立っていきます。皆さんの胸中には、これからの人生に対する、希望や不安など様々な思いが渦巻いているのではないのでしょうか。現代は、テクノロジーの進化によって、私達を取り巻く環境は複雑さを増し、将来の予測が困難な時代とも言われています。このような時代だからこそ、皆さんに持ち続けてほしいことが2つあります。

1つ目は『努力する姿勢』です。これからの生活の中で様々な困難に直面することがあると思います。しかし、皆さんが直面している困難は、日々の努力の証明であり、何かを生み出す成長のきっかけです。元メジャーリーガーのイチロー選手は、

『結果が出ないとき、どういう自分でいられるか。

決してあきらめない姿勢が何かを生み出すきっかけをつくる。』

という言葉を残しています。イチロー選手は、メジャーリーグで、アジア人として初めて首位打者と盗塁王のタイトルを獲得するなど、多くの記録を打ち立てました。しかし、彼の野球人生がすべて順風満帆だったわけではありません。数々の輝かしい記録は、多くの困難と日々の努力を経て得られたものです。皆さんも困難に直面したとき、諦めるのではなく、次への成長の機会と捉え、これまでの努力を更に積み上げていってください。そして自分の未来を自分の力で切り拓いていってください。

2つ目は、『感謝の気持ち』です。何をするにも必ず、皆さんを支え、助けてくれる人がいます。しかし、それはあたり前のことではありません。支えてもらったことに『感謝』する気持ちを大切にしてください。その気持ちを持ち続けることがやがては、人との繋がりを深め、さらには人との輪の広がりへとつながっていきます。

『努力する姿勢』そして『感謝の気持ち』を持ち続け、これからの人生を輝かしいものにしてください。応援しています。

保護者の皆様に申し上げます。本日は、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。皆様の温かな愛情により、大切に育てられたお子様がこうして立派に成長された姿に、感慨もひとしおのことと存じます。この三年間、本校の教育活動を円滑に進めることができたのも、ひとえに保護者の皆様のご理解とご協力の賜物と心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよお別れの時がきました。その胸に抱く夢の実現に向け、邁進していってください。皆さんの前途に幸多かれと祈念しつつ、『式辞』とさせていただきます。

